

埼玉県立病院の在り方に関する検討報告書

平成30年11月

埼玉県立病院の在り方検討委員会

はじめに

埼玉県立病院は、県民の生命と健康を支える高度専門医療機関として、これまで時代の要請に応じた高度な医療サービスを提供し、本県の医療提供体制において重要な役割を果たしている。

県立病院は各専門分野の中核病院として、民間医療機関では対応が困難な医療分野を担っているが、その多くは不採算である。

今日、少子高齢化や疾病構造の変化などに伴う県民の医療ニーズの多様化・高度化、地域医療構想や地域包括ケアシステムの進展、国の財政悪化に伴う診療報酬の抑制傾向など、県立病院を取り巻く環境は大きく変化している。

本委員会は県立病院が引き続き県の第三次医療機関として高度専門医療や政策医療を確実に実施し、健全な病院経営を実現することが重要であると認識しつつ、今後の県立病院の在り方とともに最適な経営形態について、約半年の間、6回にわたり議論を重ねてきたところである。

議論に当たっては、実際に病院の現場で運営に当たっている病院長との意見交換や病院の現場で日夜、献身的に医療に従事される職員の皆さんからのご意見をいただき、時間の許す限り実情把握に努めてきたところである。本書は、その結果を取りまとめたものである。

埼玉県立病院の在り方検討委員会

委員長 金井忠男

目 次

はじめに

I 検討の背景	1
II 県立病院の現状	3
III 県立病院の在り方の主な論点	8
IV 各県立病院の課題と今後必要な取組	9
V 課題に対する考え方（論点1、論点2）	13
VI 望まれる経営形態（論点3）	19

おわりに

（参考資料）

埼玉県立病院の在り方検討委員会設置要綱	30
埼玉県立病院の在り方検討委員会開催状況	32